

令和7年5月29日

石巻市議会議長 遠藤宏昭 殿

会派名 無会派  
代表者名 佐藤雄一

### 研究研修会等参加報告書

研究研修会参加の結果について、次のとおり報告します。

#### 記

- 1 研究研修会名 全国若手議員の会 令和6-7年度 東北ブロック第3回研修会  
(1) 研修①【文化財の保護と観光利用について】  
講師：青森市総務課  
(2) 研修②【三内丸山遺跡と連動した誘客施策について】  
講師：青森市総務課  
(3) 研修③【ホタテの養殖・栽培、陸奥湾海況について】  
講師：水産総合研究所
- 2 期 間 (1) 令和7年5月19日(月) 午後1時～午後2時20分  
(2) 令和7年5月19日(月) 午後2時40分～午後4時20分  
(2) 令和7年5月20日(火) 午前10時～午前11時15分
- 3 場 所 (1) 三内丸山遺跡  
(青森県青森市三内丸山305)  
(2) 青森県立美術館  
(青森県青森市安田字近野185)  
(3) 青森県産業技術センター水産総合研究所  
(青森県東津軽郡平内町大字茂浦字月泊10)
- 4 参加者氏名 佐藤雄一
- 5 参加目的  
・三内丸山遺跡および青森県立美術館における文化財の保存と利活用の事例を学ぶことで、交流人口の拡大や観光政策への応用可能性を検討する。

・教育部局と観光部局など、所管の異なる行政組織間における連携のあり方を把握する。  
・ホタテを中心とした水産資源の研究・管理体制について、持続可能性・技術伝承・人材育成の観点から学ぶ。現在、東北各地で宿泊税の導入に関する議論が進む中、昨年議会で議論があり、本年度から宿泊税がスタートをする予定の仙台市では文化・観光施設を活用したソフト事業の展開が模索されている。観光資源の利活用に加え、文化財における「保存と活用」の両立が地域振興の重要な柱となりつつある。また、水産業においては乱獲や気候変動による水温上昇などにより漁獲量が減少しており、持続可能な漁業への転換が喫緊の課題である。こうした背景から、青森県における先進的な取り組みを学び、今後の政策立案に資する知見の獲得を目的に視察を実施した。

## 6 研究研修会の概要

### (1) 三内丸山遺跡（5月19日 13:00～14:40）

- ・平成6年に発掘開始、平成7年に仮設展示がスタート。現在までに累計約950万人が来訪。
- ・令和2年のコロナ禍では来館者が7万人程度まで減少したが、現在は年間約30万人。
- ・有料化を先行し、後に世界遺産登録。主に北海道・東北から修学旅行客が多く訪れている。
- ・木の伐採には届け出が必要であり、埋蔵文化財は原則として埋設保存されている。災害リスクが低いため特段の避難計画等は策定していない。
- ・教育委員会所管であるため、観光政策とは部局連携に課題あり。観光部局の企画に協力する形で、イベントやプロジェクトマップ等の技術導入を試みている。
- ・ITガイド（タブレット解説）の導入や、縄文まつり（年4回）など来館者誘致の工夫が見られる。
- ・美術館との相互割引、動線整備など連携も行われているが、所管の違いにより一体的な政策展開には課題が残る。
- ・学芸員は県全体で50名程度と人材確保が課題。専門性の伝承や人材育成には行政の積極的な意思決定が不可欠。

### [所見]

三内丸山遺跡では、「保存」と「利活用」という文化財政策の二軸を両立させるための工夫が随所に見られた。教育委員会の所管でありながら、観光部局との連携によってイベントの実施やITガイドの導入など、来訪者に向けた情報発信と体験価値の向上に取り組んでいる。また、プロジェクトマップなど民間提案も積極的に受け入れ、技術革新への柔軟な対応も確認できた。一方で、観光部局との連携は単発的であり、政策としての一体的な展開には制度的な限界も感

じられた。保存にかかる国庫補助の減少や、学芸員の人材確保・育成の困難さも大きな課題である。持続可能な文化政策を構築するためには、所管の垣根を越えたガバナンスの再構築と、専門職の育成を制度的に支える仕組みが不可欠であると痛感した。

(2) 青森県立美術館 (5月19日 14:45~16:30)

- ・入館者数は全国8位、常設展では4位を記録。
- ・県内のアート施設と連携し、アートフェスを開催。特に八戸などでは来館者数が大幅に増加。
- ・ナイトミュージアム、映画上映、演劇など多様な企画展を実施し、リピーター層の獲得を図っている。
- ・三内丸山遺跡と異なり、観光交流部が所管しているため、文化資源を観光政策に積極的に位置づけやすい。

[所見]

青森県立美術館は、企画力と広報力に優れた文化施設であり、単体としての集客力の高さに加え、県内各地のアート施設との連携による波及効果が印象的だった。アートフェスやナイトミュージアム、演劇・映画上映など多彩なプログラムは、来館者のリピーター化と地域住民の文化参加を促す好例である。三内丸山遺跡との距離的連携やオリジナルポストカードの配布、相互割引といった施策も実施されているが、所管が観光交流部にある美術館と教育委員会所管の遺跡とでは、文化資源の活用に対するアプローチに温度差がある。今後、県全体として文化観光政策を戦略的に統合する視点が求められる。文化資源を点ではなく面として捉え、部局横断的な連携を制度的に強化していく必要性を実感した。

(3) 青森県産業技術センター 水産総合研究所 (5月20日 10:00~11:30)

- ・青森県の漁業生産量は年間11.7万トン、生産額は約378億円。
- ・ホタテとスルメイカが主力だが、近年スルメイカの漁獲量は1995年をピークに大幅減少。
- ・漁場環境の調査・資源管理技術の開発を行い、水産資源の持続的利用を目指している。
- ・ホタテに関しては、高水温によるへい死を防ぐ研究や、作業効率化による担い手確保の取組を実施。
- ・国の委託研究も行っており、水産庁との会議体等で政策への反映機会がある。・地方独立行政法人としての強みは「専門性を持続的に追求できる人事制度」。転勤がなく、知識の蓄積が可能。
- ・研究職員の約半数が修士・博士号を取得。北海道大学や東京海洋大学等で学んだ青

森県出身者のUターン採用が多い

[所見]

水産総合研究所の視察は、地方自治体における水産業の持続可能な発展に必要な要素を多角的に確認する貴重な機会となった。気候変動や乱獲の影響で資源量が著しく変動する中、標識放流や生育環境の解析といった科学的アプローチを取り入れた取り組みは、地域経済の根幹を支える水産業を次世代に繋ぐ上で極めて重要であると感じた。

また、理系の高度人材が首都圏や北海道の大学で専門性を磨いた後、地元に戻って研究者として活躍しているという人材循環の仕組みは、地方における「知の還流」の好事例である。理系人事流出が課題とする土地が多い東北において、この地方独立行政法人という制度を活かし、研究職員が異動の心配なく長期的に専門研究に集中できる体制は、人的資源の質と研究の継続性を担保する制度設計は参考になると考える。地元若者のキャリア形成と地域への定着支援が一体的に進められており、いわば「人材戦略としての産業政策」としても評価される。今後、同様のモデルを福祉・農業・教育といった他分野にも応用し、地域の担い手不足や頭脳流出といった共通課題に対する政策展開の参考となる可能性がある。

総括として、今回の視察を通して、以下の3点が重要な政策的視点として浮かび上がった。

1. 文化財・観光資源の一体的な活用には、部局間連携を越えたガバナンス設計が必要である。
2. 専門職の継続的育成には、自治体の戦略的意思決定と制度設計が不可欠である。
3. 気候変動に対応した漁業政策の鍵は、地域現場の研究知見を政策へ反映する仕組みにある。

今後、それぞれの自治体の政策検討においても、保存と利活用の両立、人材戦略、地域産業の持続可能性といった視点を大切にしながら取り組むことが必要であると感じた。今回の視察・研修で得た知見を、本市の今後の施策の参考としたい。

7 参加経費 32,295円

令和7年4月25日

全国若手議員の会 各位

全国若手議員の会 東北ブロック  
代表 郷古 正太郎(仙台市議会)

### 令和6-7年度 東北ブロック第3回研修会について

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度下記の通り、令和6-7年度東北ブロック第3回研修会を青森県青森市・東津軽郡平内町において開催する運びとなりました。研修を通し、会員間の更なる情報交換等が活発になりますよう、ふるってのご参加をお待ち申し上げます。

お忙しいところ誠に恐縮でございますが、万障お繰り合わせの上、重ねてご出席賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

#### ○研修日程その1 令和6年5月19日(月) 13:00~16:30

12:50 集合 三内丸山遺跡  
(青森県青森市三内丸山305)

##### 研修① 13:00~14:20

会場：三内丸山遺跡 【※オンラインなし】

テーマ：文化財の保護と観光利用について

講師：総務課

(公式HP) <https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp>

(アクセス・最寄) 青森駅・新青森駅よりバス“ねぶたん”または青森駅よりA1系統  
青森ICそば

現地まで乗合を希望される方はフォーム連絡欄へご記入ください

##### 研修② 14:40~16:20

会場：青森県立美術館 【※オンラインなし】

テーマ：三内丸山遺跡と連動した誘客施策について

講師：総務課

#### ○研修日程その2 令和7年5月20日(火) 10:00~11:15頃

09:45 集合 青森県産業技術センター水産総合研究所  
(青森県東津軽郡平内町大字茂浦字月泊10)

##### 研修③ 10:00~11:15

会場：青森県産業技術センター水産総合研究所 【※オンラインなし】

テーマ：ホタテの養殖・栽培、陸奥湾海況について

講師：水産総合研究所

(HP) [https://www.aomori-itc.or.jp/soshiki/sui\\_sougou/](https://www.aomori-itc.or.jp/soshiki/sui_sougou/)

(アクセス・最寄) 青森駅から車で45分、乗り合わせ等応じます

○研修費 2,000円 [税込] /人 (会員)

○参加申込：グーグルフォームにて <https://forms.gle/fsqKuUEPvzQEaQ2K6>

※お誘い合わせの上、また部分的なご参加も歓迎いたします

※研修等開催中に途中出席・途中退室される方は、その旨連絡欄へ必ずご記入ください

※ご質問等ございましたら、連絡欄をご活用ください

※申込〆切を延長します。懇親会についてはご希望に添えない場合がありますので、予めご了承ください

<お問い合わせ><緊急連絡先>

全国若手議員の会東北ブロック 事務局 大山 豪(湯沢市議会)

Tel : 070-2020-4141 Mail : [goh.yuzawa@gmail.com](mailto:goh.yuzawa@gmail.com)



以上